

令和5年度 学校評価 アンケート結果(児童・保護者・教職員)
 アンケート実施 令和5年 11月
 調査人数 児童1~6年生(76/78人) 保護者(70/78人) 教職員 11人

A:あてはまる いつもそうだ よくわかる
 B:だいたいあてはまる そうだ わかる
 C:あまりあてはまらない どちらかというと～
 D:あてはまらない いつもそうではない よくわからない

【学校運営 保護者・地域との連携による児童の育成】

(1) 開かれた学校づくりへの情報発信

① 達成評価A+Bが90以上はA、70以上はB、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
学校だよりや HP 等を通して学校の様子はよくわかりますか	保護者	38.6	60.0	1.4	0	A	A
家庭や地域への情報発信はよくできていると思いますか	教職員	54.5	36.1	9.1	0	A	

(2) 学校の居場所づくりと生活習の確立

② 達成評価A+Bが90以上はA、70以上はB、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
学校は楽しいですか	全児童	38.2	53.9	5.2	2.6	A	A
毎日楽しく学校に通っていますか	保護者	51.4	47.1	1.5	0.0	A	

③ 達成評価A+Bが90以上はA、70以上はB、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
気もちのよい挨拶をしていますか	全児童	50.0	43.4	6.5	0.0	A	A
家庭や地域で進んで気持ちのよい挨拶をしていますか	保護者	43.1	44.4	11.1	1.4	B	
進んで気持ちのよい挨拶をしていますか	教職員	9.1	90.9	0.0	0.0	A	

④ 1時間以内が60以上はA、2時間以内が60以上はB、上記以外はC		なし	30分以内	～1時間	～2時間	2時間以上	評価	達成評価
学校がある日に遊びでメディア(ゲーム、動画、ライン等)をする時間はどれくらいですか	2～6年	1.5	10.8	33.8	41.5	12.3	B	B
平日にお子さんは遊びでゲーム、動画、ライン等をどれくらい使っていますか	保護者	4.3	7.1	22.9	50.0	15.7	B	

⑤ 「ある」の割合90以上はA、70以上はB 上記以外はC		ある	なし	評価	達成評価
メディアをする時間について、家でのきまりがありますか	2～6年	69.2	30.8	C	C
メディアの接し方について、家でのきまりはありますか	保護者	82.9	17.1	B	
ある回答の方 お子さんはルールを守っていますか	保護者	62.1	37.9	C	

(3) メディアに関して、児童が回答した家庭でのきまり

【時間を決めて】	【何かをしてから】	【具体的ではないが・・・】
・ゲームは1日 30分。メディアは2時間 ・1日2時間以内 ・1日1時間 ・毎日1時間まで ・1日1時間。8時まで ・平日30分。休日は1時間 ・夜の7:00まで、ゲームは1時間まで ・8時15分まで ・9時30分にお母さんの部屋にもっていく	・宿題をしてから1時間 ・宿題やおふろが終わって8時45分までの1時間 ・宿題が終わってから使うなら30分だけ ・やることをおわってから1じかんか30ぶん ・やることなどを終わらしてからゲームをする ・宿題、準備等、やる事が出来てから、寝る時間の『5分前』にゲームを辞める ・ごはんの時は30分 ごはん以外は1時間 ・宿題などやるべきことをやってからゲームをする ・自主勉強と手伝いをしてから ・してもいいアプリを選んでいる ・やる前に今日のルールを決める	・やりすぎ注意 ・めっちゃしない。 ・勉強以外使わない ・時間を守る ・目を休めながら、時間を決めて ・勉強が終わったらできる ・決まった時間まで ・宿題がおわってから。つづけて、長い時間見ない

【分析・考察等】

・学校だより・通信等で児童の成長を伝えていることに加え、HPについては、月別で見ると昨年度より閲覧数が増加した月が多くあった。今後も児童の活動の様子がよく分かる画像や学校の取組の紹介、児童の成長の様子を積極的に発信していく。また、より多くの地域の方々に学校に足を運んでいただき子どもたちの様子を参観いただけるように情宣活動に取り組んでいく。

・「学校は楽しい」については、友だちとの関係が良好で異学年での遊びも楽しいと感じている児童が多い。また、学習では友だちと学び合うことが楽しいと感じている児童が増えてきている。保護者の方も子どもが悩んだり、弱気になったりした時に背中をそっと押しながらか支援してくださっていることがよく分かる。今後、苦手な教科への自信のなさや友だちとのトラブルがあった時などの教師の支援と保護者との連携がより重要となってくる。児童の見取りを教師間また保護者と情報共有し、相互で子どもに寄り添う支援に務める。

・児童会の取組などもあり、昨年度より自分から挨拶する子が増えたと感じるが、教職員の数値からは、もっと改善していきたいと感じている職員が多いことが伺える。全校的な取組として今後も意識していきたい数値である。

・メディアの利用時間は、児童と保護者の間に大きな差はないが「家庭でのきまり」について、児童と保護者間で認識の差があると感じる。また、ルールはあるが守れていないと感じている保護者が4割近くいることも気になる場所である。家庭のルールや守るための秘訣など紹介し合う機会を懇談会など気楽に話し合える場で共有することも考えていきたい。

【教育課程 学習指導 協働的な学びと個別最適な学びの充実と ICT の活用】

① 達成評価A+Bが90以上はA、70以上はB、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
勉強はわかりますか	全児童	43.4	53.9	2.6	0.0	A	A
家での学習に進んで取り組んでいますか	保護者	23.9	50.7	19.7	5.6	B	

② 達成評価A+Bが90以上はA、70以上はB、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
友だちと対話することでよかったと感じることはありますか	全児童	20.0	72.3	6.4	1.3	A	A
意見を聞いたり、考えを広げたりと学び合いの授業づくりを意識して取り組んでいますか	教職員	40.0	40.0	20.0	0.0	B	

③ 達成評価A+Bが90以上はA、70以上はB、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
新しい課題や学習にとり組むことは楽しみですか	全児童	28.9	51.3	17.1	1.3	B	B
子どもたちの授業のスタイルは変わってきたと実感されていますか	保護者	32.9	58.6	8.6	0.0	A	
子どもたちは新しい課題や学習に取り組むことを楽しんでいますか	教職員	27.3	72.7	0.0	0.0	A	
自分で考えて行動できる力を高めるために、子どもたちが判断したり決めたりする機会を増やしていますか	教職員	45.5	27.3	27.3	0.0	B	

【分析・考察等】

- ・「勉強はよくわかりますか」は、昨年度同様どの学年においても高い数値を示しており、記述欄に「授業が楽しい」「友だちとの相談や話し合いが楽しい」「友だちと意見を交流することで新しい考えに気づけたり自信が持てたりする」などの意見が複数あること、また学習に関するほぼすべての質問項目を1学期と比較しても伸びていることから子どもたちが成長した一年であったことが伺える。
- ・「新しい課題や学習に取り組むこと」についても昨年度より3ポイント上昇している。また6月と比較しても上昇している。記述回答欄には「自分たちで学べる」「自分に合ったペースで学ぶ学習が好き」など今年度より全学年で自由進度学習に取り組んだ成果も大きいと感じる。中でも先生方も新しい挑戦を肯定的に捉え楽しんでいることが子どもたちの変容につながったと考える。また子どもたちに自分で考えて行動できる力を高めるために、子どもたちが自己決定する場を設定している教職員が増加傾向であることも子どもたちとともに教職員の成長につながっていると考える。

【人権教育 自尊感情と人権意識の高揚】

(1) 自尊感情

① 達成評価児童ある90以上はA、70以上はC、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
自分にはよいところがあると思いますか	全児童	43.4	40.8	9.2	6.6	B	A
お子さんのよい所をほめていますか	保護者	31.4	60.0	7.1	1.4	A	
子どもたちの伸びや認める言葉を意識してかけていますか	教職員	54.5	45.5	0.0	0.0	A	

(2) 人を大切にできる気持ち

② 達成評価児童ある90以上はA、70以上はC、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
ともだちのよいところを見つけて伝えてありますか	全児童	15.4	78.5	6.2	0.0	A	A
友達を大切にできる気持ちが育っていますか	保護者	37.1	60.0	2.9	0.0	A	

② 達成評価A+Bが90以上はA、70以上はB、上記以外はC		A	B	C	D	評価	達成評価
友だちと協力して何かをすることは楽しいですか。	全児童	50.0	44.7	5.2	0.0	A	A
友達と協力して何かをする活動時間を意識して設定していますか	教職員	40.0	60.0	0.0	0.0	A	

【分析・考察等】

- ・「自分にはよいところがある」については、今年度より回答の選択肢を上記のように変更した。これまでの「ある」「ない」「分からない」という回答形式では「分からない」と回答する児童が多かったが、今回の調査では肯定的回答は6月 77P、11月 83Pと年度内でも上昇しており、本校の課題としていた自尊感情については大幅な改善が見られた。回答形式の変更もあろうが、「子どもたちのじりつ」を合言葉に特別活動や係活動をはじめ授業でも子どもたちの主体性を大切にしたい授業を行ってきた成果は大きいと考える。
- ・ただ、「自分にはよいところはある」に否定的な回答をした児童が一定数いることから、一人ひとりを把握し、個別にアプローチしてこよう職員で話し合った。児童会の取り組んでいる「ふわふわことば」ストリートや1月の月目標の声をかけあつての縦割り掃除など、児童会や全校的な取組で子どもたちの自己肯定感を高めていくことも大切にしていきたい。
- ・違いや多様性の尊重を意識し、子どもたちに声をかけ続けたことで、「違い」に目を向けたうえで相手を褒める（私は～するのが苦手だけど、〇〇さんは～しているのがすごいと思った。）（苦手なことがあるのは悪いことじゃないよ。その分〇〇さんは～が得意だと思うから、得意なことをがんばればいいんじゃない？）ことができるようになってきていると感じる。また「違い」を尊重することが、特別支援教育への理解につながり、違う教室や場所で違う内容を学習していても、個々を尊重することにつながっている。